

■事前説明・ヒアリングにおける意見概要等について

委員	意見概要等
宮田 委員	<p>【体裁・表現について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地形や地質の説明では、岩や露頭の写真だけでなく、花崗岩や流紋岩など各地域の散策ルートにて確認できる岩の薄片写真を示すと分かりやすく、また、子どもたちの興味を引く。 ・裏六甲という表現の取り扱いについては、過去の経緯を再度確認し注意する必要がある。 ・裏六甲の地形を説明する上で、六甲山を北側から東側から西側に向けて撮った航空写真があると分かりやすい。(神戸新聞が発行している写真集がある。)また、裏六甲の特徴が理解しやすい断面位置を設定して断面図に示すと良い。 <p>【学習素材について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有馬温泉の源泉温度が高いことは特徴(ふしぎ)のひとつに挙げられる。 ・有馬川では、慶長地震のような古い地震の記録が残っていると聞いている。 <p>【散策ルートについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・散策ルートの設定については、登山ルートだけでなく、学校の先生が教材として利用する場面を想定することが重要である。 ・住吉川地域の散策マップを学生の現地視察に活用したが、現地に危険な場所があった。安全面からの散策ルートの改善、案内標識の充実が必要である。
香西 委員	<p>【学習素材について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・裏六甲でエゾツツジがこの前見つかったと聞いている。 ・お経が彫られた岩があり紹介しては。 ・新田次郎の著書「孤高の人」のモデルとなった登山家「加藤文太郎」など、六甲山に由縁のある人物を紹介してはどうか。 ・番匠谷と呼ばれる谷があり、昔、木の器を作る木地師の一人が住んでいたという。(資料があるので後日提供を行う。) ・有馬周辺に水無谷と呼ばれる場所があり、普段は水が流れないが大雨などによっては災害を引き起こす谷となるため、注意が必要である。 ・近年は災害が減少しており、土木技術の進歩であろうと考えている。また、森づくりにおいて企業の参画が見られる。 <p>【散策ルートについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚屋道やブナ林のある紅葉谷が代表的なルートである。
水野 委員 藤井 委員	<p>【学習素材(自然)について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植物学者の牧野富太郎先生や田中芳男先生が有馬を訪れ、有馬の植物を調べられている。田中芳男先生による有馬の植物版画の掛軸があり、参考になればと思う。 ・戦時中の情報として、裏六甲側にはブナ林が残っていたと伝えられている。一方、現在ナラ枯れが心配されているが、災害の発生にも起因してくる。 ・有馬三山には愛宕山が入る。別名「三笠」とも呼ばれ、利休荘から見た風景を有馬三山という。 ・カスミサンショウウオが昔は存在していたが、今では絶滅してしまった。 ・有馬富士については、藤原台や花山院からの眺めが良い。

委員	意見概要等
<p>水野 委員</p> <p>藤井 委員</p>	<p>【学習素材（歴史・文化等）について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有馬へ魚を運び、帰りは炭を運ぶ商人がおり、「魚屋」の屋号がついていた。また、炭は白炭であった。 ・四十八滝へのアクセスルートは、散策者のために神戸電鉄の社長が拡幅したと聞いている。 ・有馬温泉の泉源は国の定めた成分のうち 7 つが含まれるという珍しいものと聞いている。 ・有馬の温泉は火山がないのに“なぜ”高温なのか、天皇が立ち寄られた有馬温泉なども話題の1つになるのでは。 ・「行基上人」ではなく「行基菩薩」と呼ぶほうが適切ではないか。 ・昔は有馬川周辺に有馬三社と呼ばれる神社があった。 ・有馬の行事としては、桜祭りや奉納相撲が挙げられる。奉納相撲については現在無くなっているが、昔の番付や写真が有馬文庫にある。 <p>【学習素材（防災）について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滝川と六甲川が合流して有馬川となる地点付近が暗渠構造となっていて、この部分に流木等が詰まって洪水被害が発生したと聞いている。 ・大正4年の河川改修は有馬の礎を築いたといえる。 ・昔は大水の後には川さらいを行って、土砂を取り除き河床を下げていた。 ・有馬は固い岩盤の上に建物が建っており、地震の被害が少ないが、水道の配管工事などに困ると聞いている。 ・有馬川の上流には石垣で造られた堰堤が残っている。 ・砂防堰堤について、構造や寿命、安全性などの説明があってもおもしろい。
<p>稲垣 委員</p>	<p>【体裁・表現について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「裏六甲」という言葉は適正であるのか確認が必要である。 ・過去の写真について、東北芸術工科大学のデジタルアーカイブスを利用してはどうか。 <p>【学習素材について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代、温泉番付というものが存在し有馬温泉は西の横綱となっていた。 ・有馬川は摂津国と播磨国の境であったのではないか。 ・有馬川の周辺地域は、現在は神戸市北区であるが、阪神大水害時は神戸市でなかった地域も存在するため、当時の情報として区域の確認が必要である。 ・神鉄道場駅周辺に銅像があると聞いている。 ・六甲山の植林は六甲に日本で最初のゴルフ場を建設したグルーム氏達によるものが最初であるといわれている。 ・有馬川地域の学習要素としてゴルフ場を考えてみてはどうか。 ・西区桜ヶ丘小学校中山校長が鉄道に詳しいので、国鉄有馬線について聞いてみてはどうか。 ・唐櫃の辺りに洪水の記録を記した碑がある。また、鹿の子台周辺に昔の道標がある。身近なものを題材にさせていただくと興味を持つと思う。

委 員	意見概要等
藤木 委員	<p>【学習素材について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有馬は昔から山崩れや火事などの災害に見舞われてきたが、その度に復興している。家の前も昔は川であったが、川の流れを変えた。 ・有馬三山の頂上に石碑がある。また、癒しの森の入口付近（紅葉谷）に炭窯がある。 ・鉄砲山は鉄砲水が起こったことに、また、水晶谷は、昔水晶が採れた由来するのではないか。 ・白水峡は見やすくて、良いと思う。 ・灰形山では、がけ崩れで四角い石が落ちてくるが、なぜ、四角いのか不思議である。また、がけ崩れなどの危険な状況を撮影しておいて、六甲山の危険な側面も示すようにしてはどうか。 ・四十八滝の夫婦滝は、昔は階段で上がったが今は上がれなくなってしまった。 ・有馬温泉は大阪湾からの地層が海底で逆転して熱を放っていると聞いている。 ・阪神大水害の際に暗渠（今の阪急バスの辺り）が土砂や流木などが詰まって、氾濫した。 ・六甲治山事務所（県）と六甲砂防事務所（国）の事業の違いなど大人向けの内容を盛り込んではどうか。 <p>【地域の活動について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔、愛宕山で桜の植樹活動を行った。また、有馬全体でも桜を植えている。 ・癒しの森の活動において、炭屋道と筆屋道などのコースづくりやアジサイ・シザンカなどの植栽などを行っており、是非癒しの森について記載してほしい。 ・現在、有馬の15年先を考えたマスタープランをつくっている。インフラ・マーケティング・ソフトの3部会にて検討を行っている。こうした活動も盛り込んではどうか。
桜ヶ丘 小学校 中山 校長	<p>【有馬鉄道について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新道場周辺には当時のガードが残っている。 ・大正に開通し、昭和17年頃に休止している。 ・篠山線をつくるために有馬線をつくったとされている。 ・阪急流通センターの東で、とれとれ屋さんの近くに「駅前橋」と名前のついた橋が残っている。 ・有馬鉄道は終点到転車台がなかったため、バックで帰っていた。 ・山口交番の近くにも有馬鉄道の名残がある。 ・有馬温泉駅は神戸電鉄線の中で最も標高の高い位置にあると聞いている。 ・鹿の子台は鹿の子温泉が由来になっていると聞いている。